

# 1-4 身近な人々の職業 (1)

## 価値観 (勤労観・職業観)

### 1. 題材設定の理由

生徒は、身近な人々（家族など）の職業について、知っていることなどいろいろなことを考えている。職業について考えていることをA男くんの家族の職業（資料）を通して、働くことの意義や目的、喜びや満足感について考えさせる。それらを次時の職業調べの活動につなげ、いろいろな職業の仕事内容を知り、どの職業でも専門的な知識や技能が必要であることや、職場の人やお客さんへの対応など人間関係も大切にならなければならないことに気付かせ、職業に対する見方を深めさせる。

### 2. 指導のねらい

自分の身近な人々（家族など）の職業や、A男くんの家族の職業の見方について深めさせ、働くことの意義や目的、喜びや満足感を具体的に考えさせる。

### 3. 指導計画（全1時間）

本時	・自分の身近な人々（家族など）やA男くんの家族の職業（資料）をもとに、働くことの意義や目的、喜びや満足感について考え、職業に対する見方を深める。
----	--

#### <説話例>

「おいしい、というひと言が励みになっています。」

S君のお父さんは食品会社で乳製品を中心に新商品の開発をしています。コーヒーに入れるミルク、ソフトクリームやアイスキャンデー、レトルト食品の材料など200種類ぐらい作っています。今ではその商品をフィリピンやタイなど、東南アジアの方にも輸出しているそうです。その会社に就職した理由は、大学で食品化学の勉強をして卒業後はその専門知識を生かそうと考えたからです。会社では大学での研究より苦勞がたくさんあります。厳

しさもあります。例えば、新商品は発売日が決まっています、それまでに新しい商品を開発しなければなりません。期日が迫ってくると徹夜をしても仕事をします。また、売れると思って作った自信作でも、人気なくて会社に損害を与えてしまったこともあります。だから自分が開発した商品が売れているか気になって、自分が開発した商品を買ったお客さんにそっと聞くことがあります。お客さんから「おいしい。」と言われた時、これまでの苦勞や疲れがスーと消えていき、仕事へのやる気がわいてくるそうです。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・身近な人々（家族など）の職業について知っていることや考えていることが、発表できる。	◎身近な人々（家族など）の職業について、知っていることや考えていることを発表する。 ・両親とも働いている。 ・帰りが遅い。休みの日も仕事。 ・「今のうちに勉強しなさい。」と言われるが、仕事の方が楽だと思う。	・職業について表面的にしか見られていない実態を明らかにしたい。  ・苦勞や生きがい、働く人の思いにも注目して発表できた生徒を位置づける。	・P.12①
課題：働くことの意義や目的、喜びについて考えよう。				
中心の活動	・A男くんの家族の職業（資料）をもとに、家族の職業に対する見方を深めることができる。	◎A男くんの家族の職業（資料）を読む。 ◎親の職業調べをしてA男くんは、働くことについてどう思ったのか考える。 ・一人で何役もしなければならないので、大変だと感じている。 ・不規則な仕事なので都合に合わせて休憩しなければならないので大変だと感じている。 ・人と接することが多いので大変だと感じている。  ◎働くことの意義や目的について交流する。 ・親が働くのは、収入を得てわたしたち家族を養うため。 ・遊ぶお金が欲しくてアルバイトをする人もいる。 ・働くことは、大変なこともあるが、やり切る満足感などを得られるという喜びがあると思う。 ・遊ぶお金がほしくてアルバイトをしている人は続かない。 ・ぼくの父は飲食店で調理師の仕事をしていて、今日はお客さんがとても喜んでくれたという話を、時々うれしそうにぼくたちに話す。苦しいことや辛い時もあるだろうが、喜びや満足感もあるのだと思う。	・教師が範読して、必要に応じて説明を付け加える。  ・親の職業に対するA男くんの思いに注目して考えさせる。 ・どうしてこんなに苦勞が多い仕事を続けているのかという疑問から、働く意義や目的、喜びについて考えさせる。  ・1-6の指導内容との関連を考えて、様々な見方があることを発表させる。	・P.12②のA男くんの作文 ・P.13③
まとめの活動	・働くことの目的や喜び、職業に対する見方をまとめることができる。	◎「働くことの意義や目的、働くことの喜びとはどんなことか」について、A男くんの例や身近な人々（家族など）の職業や自分が就きたい職業の例で具体的に考えて、P.13④に記入する。 ◎P.13の④に記入した内容を発表する。	・A男くんや自分の家族の職業を中心に具体的に考えさせる。自分が就きたい職業がはっきりしている場合は、その職業の場合でも考えさせる。	・P.13④